

生ごみを地域資源として循環させる コミュニティ・コンポスト・ネットワーク

イギリスでは、行政によるごみの分別回収の遅れから、住民が自主的に生ごみを回収し、資源として農地に還元するという活動が広がり、現在、全英に150を超える市民団体がつづられています。その活動を支える全国規模の組織「コミュニティ・コンポスト・ネットワーク(以下、CCN)」の拠点となっているヒリー・シティファーム(住民参加型の都市型農園)を訪ねました。

公園のような、生ごみの資源化施設

ヒリー・シティファームは市街を見渡せる小高い丘の上にあります。色とりどりの花にあふれ、池や遊具スペースがあるこのファームは多くの市民が訪れる憩いの場でもあるのです。

奥に広がるコンポストコーナーでは、家庭

の生ごみとファーム内の家畜の糞や雑草、市が集めた街路樹の落ち葉から堆肥がつくられています。断熱用にカーペットで覆ったプラントは、週1回の攪拌かきまぜを繰り返して、約半年で堆肥が完成します。加工食品の生ごみは微生物によって分解されにくいので、高度な処理能力をもつ大きな設備で堆肥化されます。

できた堆肥は、ファーム内の菜園と温室のほか、シヨップや地域のガーデンセンターで販売されています。

生ごみが雇用問題の解決策になる

CCNは慈善団体と有限会社を設立、EUや自治体から助成金を受けて運営されています。生ごみは、周辺の約150戸の各家庭に

専用の容器を配り、ボランティアが毎週回収して集めるというしくみ。このとき、地域通貨「LETS (Local Exchange Trading System)」が使われ、運営費の1割はこのLETSが利用されています。

CCNでは、低所得者や失業者対策、障害者の支援策としてデイケアや職業訓練(園芸、動物の飼育など)も行っています。担当者のデービッドさんは「最大の目的は地域の雇用を促進し、コミュニティ・ビジネスを発生させること。コンポスト(堆肥)のニーズは高く、

もっと生産量を増やしたい」と熱く語ります。現在は、新しい環境教育・職業訓練用の施設も建設中。ごみ問題と同時に、ほかの社会問題の解決にもつながるCCNの活動にこれからも注目していきたいと思えます。



南ヨークシャーにあるヒリー・シティファーム。スロープや広いトイレが整えられ、誰もが憩えるユニバーサルデザイン。



コンポストコーナー。分解促進のため週に1回切り返しを行い、隣の区画へと移す。



家庭用コンポスト容器の展示。古タイヤを活用したものもある。



広々とした温室。失業者や障害者の職業訓練の場として使われる。



さまざまな植物が植えられ、美しくデザインされたガーデン。



羊や馬、牛、豚など家畜の飼育場。糞は堆肥づくりに利用されている。



ショップでは自家製堆肥で栽培された苗を販売。



ユニークなディスプレイ用の花壇は子供たちに人気。